

10:00 - 10:15

ご挨拶

10:15 - 11:45

基調講演

# 「産業振興」発想から「社会システム・デザイン」発想へ

東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム 特任教授  
社会システム・アーキテクト

横山 禎徳 氏



グローバル化の本質は「日本が世界に染み出し、世界が日本に染み込んでくる」という地域間の「相互連鎖」ですが、同時に産業や学問の専門分野間の「相互連鎖」も進行中です。現代社会が直面している超高齢化の進行、地球温暖化による気候変動、エネルギー供給の不安定性などの現象に対しては、単一専門分野の知識と経験だけでは適切な課題設定ができません。この状況に対処するには**縦割りの産業振興発想から脱却し**、産業や学問分野横串で課題を捉えるだけでなく、**生活者の視点からの解決策を作り出す「社会システム・デザイン」**を活用すべきです。

本講演では、触れて目に見える建築デザインから離れ、触れず目に見えない「社会システム・デザイン」へ転換した個人的な経験をもとにその重要性和デザインの方法論を語ります。

13:00 - 14:00

講演

14:00 - 14:30

質疑応答

## ITSによる交通の革新と未来創造

特定非営利活動法人 ITS Japan  
専務理事



天野 肇 氏

我が国では、情報通信技術や電子制御技術を活用して、事故・渋滞などの自動車交通の課題を解決すべく**ITS (Intelligent Transport Systems)**の開発を進め、世界に先駆けて実用化・普及が進展してきました。さらに、移動通信技術の飛躍的発展と日常生活への急速な浸透に支えられ、**次世代のモビリティ**においてITSが果たすべき役割は益々大きくなってきました。政府の戦略にも**自動走行やビッグデータ**が取り上げられ、産官学が連携した新たな活動が動き出しました。これらの技術は、少子高齢化、エネルギー・環境、安全・安心などの**社会的課題解決の基盤**になることも期待されています。

## 道路インフラのアセットマネジメントにおけるデータの取得と活用

中日本高速道路株式会社 東京支社  
環境・技術管理部  
環境・技術チーム  
担当リーダー



山本 浩司 氏

従来の道路インフラ・道路付帯施設の点検手法は、点検員の目視・触手を主体として、それ以外は簡易な計測器具の利用に留まっていた。しかし交通安全対策の実施に伴って資産が大幅に増加し、同時にこれらの検査のための時間や交通規制も増加する一方で、点検員の経験差によるバイアスやヒューマンエラー、想定外箇所での変状発生などという課題も抱えていました。現在これらの改善に向けて、**ICT技術を活用した構造検査手法**の見直しを進めています。それらの技術を駆使して、いかにデータを取得し将来的な損傷・劣化などを予測・把握して、費用対効果の高い維持管理へと活用するか (**アセットマネジメント**)、その一端をご紹介します。

## イノベーションを生む米国スタートアップコミュニティの実際

後援：米国大使館商務部

Colorado Technology Association  
CEO



Erik Mitisek 氏 **同時通訳**

シリコンバレーだけじゃない。今、世界各地で**スタートアップコミュニティ**が生まれ、次々と新しいビジネスが誕生しています。その中でも特に先鋭的な取り組みを行う米国コロラド州デンバー・ボルダー地域。**起業家・ファンド・大学・自治体**を巻き込んだコミュニティは、TechStars、StartupWeek など数多くの新しい取り組みを生み出しながら日々進化し、起業家にとって最も魅力的な街の一つとなっています。エリック・ミティセック氏は、この地で14年に渡り、様々なスタートアップ企業の立ち上げや支援を行い、幅広いコミュニティ活動を支援しています。その豊富な経験を元に、イノベーションを創発させる**街ぐるみの取り組み**についてご講演いただきます。

15:00 - 16:00

講演

16:00 - 16:30

質疑応答

## 人・モノ・クルマの位置情報ビッグデータを防災に活かす

株式会社ゼンリンデータコム  
ネットサービス本部 営業戦略室  
マネージャー



足立 龍太郎 氏

あらゆる機器がインターネットに接続される昨今の流れの中で、顧客や設備から生じる**大量のデータ**から**マクロな動向を推定**し、社会にフィードバックする動きが広がっています。例えば、“人やモノ”の滞留や移動に関する膨大なデータの定量化・可視化の動きは、街づくり・地域振興・道路計画・防災・維持管理など、様々な領域に大きなパラダイムシフトをもたらしている顕著な例の1つといえます。新たな社会インフラとして期待される**位置情報ビッグデータ**。今回は特に**防災領域での活用**にフォーカスし、その可能性について言及します。

## 炭素繊維複合材料(CFRP)とその適用事例のご紹介

帝人株式会社  
高機能繊維事業本部 生産・研究開発部門  
ソリューション開発部 部長  
兼大阪研究センター長



内川 哲茂 氏

東邦テナックス株式会社  
炭素繊維・複合材料事業本部 営業部門  
インダストリービジネスグループ  
グループ長



須山 洋一 氏

炭素繊維強化プラスチック：CFRP (Carbon Fiber Reinforced Plastics) として用いられる炭素繊維複合材料は、最先端素材として1971年に日本で誕生しました。**高強度、高弾性**の強化材料としてのCFRPは、金属やGFRP (ガラス繊維強化プラスチック) を置き換えることで**大幅な軽量化**が見込まれることから、飛行機、自動車の燃費向上につながり、地球環境に優しい素材技術として着目されています。今回は、炭素繊維を含む高機能繊維素材の特性に加え、炭素繊維市場とその適用について、実例を含めてご紹介します。

\*講演内容およびタイトルが変更になりました

## 再生医療におけるコトづくり

大阪大学  
大学院工学研究科 生命先端工学専攻  
教授



紀ノ岡 正博 氏

再生医療や細胞治療を前提とした**細胞製造における要素技術** (施設、自動装置など「モノづくり」に資する技術) では、要素の更新だけでなく、要素間での技術統合ならびに培養操作や製造管理に対するサービスとの一体化が不可欠です。一方、医療に従事する医師・技師や細胞製造に関わる細胞操作者などの**キャリアパスの構築**などを含めた「ヒトづくり」、さらに、国際的な市場確保には、戦略に基づく**国際標準化や日本独特な規制改革**による「ルールづくり」が不可欠で、「モノ・ヒト・ルールづくり」の**一体化**が、今後、再生医療産業分野における「コトづくり」を成し遂げるものと考えます。本講演では、最新技術を含めた日本の現状を紹介いたします。

\*講演内容・講演者を予告なく変更する可能性があります。ご了承ください。



**5F オープンラウンジ** では、フリードリンクおよび無料 Wi-Fi をご用意しています。

空き時間など、お気軽にご利用ください。なお、会場への食べ物のお持ち込みはご遠慮ください。